



新学期は、・・・再登校につなげる大きなチャンス！

まずは「子どもが登校しやすくなる環境」づくりを！

新学期が近づいてきた2～3月は、・・・

「4月からは、学校に行ってみようかな、行ってみたいな。」

と、新学期への希望や期待を膨らませている子どもたちが、たくさんいます。
いろいろなことが新しくなるので、希望や期待が膨らんでいきます。



しかし、例えば、新しいクラスの中に、

「この人と同じクラスになるのは、絶対にイヤ！」という同級生がいたら、
その時点で、再登校に大きなブレーキがかかってきます。

ですから、新学期が始まるまでに、新しいクラス編成なども含め、

「子どもが登校しやすくなる環境」を整えておくことが、大事になってきます。

◆「子どもが登校しやすくなる環境」づくりのポイントは、・・・人間関係！

「子どもが登校しやすくなる環境」を整えることを、「環境調整」と言います。

この「環境調整」は、・・・

子どもの気持ちや考えに耳を傾けながら、保護者が中心になって進めていきます。

そのとき、最も着目すべきは、・・・学校生活における人間関係です。(注1)

不登校の児童生徒、保護者が、直接回答した調査結果において、
友だちや先生との関係が、不登校の要因と回答しているケースが少なくないからです。



例えば、「いじめ被害」が不登校の要因と回答した不登校児童生徒は

26.2%、保護者は29.2%もあります。この結果をもとにすると、・・・

不登校児童生徒の4人に1人は、「いじめ被害」が不登校の要因ということになります。

また、「教職員への反抗・反発」が不登校の要因と回答した不登校児童生徒は35.9%、
保護者は44.7%もあります。

以上の結果からも、学校生活における人間関係の調整が、いかに重要かが分かります。

◆保護者は、・・・新学期の「クラス編成」に関わることができるのですか？

「でも、新学期の「**クラス編成**」に、保護者が関わることができるのでしょうか？」

・・・と思われる保護者さんが多くいらっしゃるかも知れませんが、・・・

結論、・・・保護者は、新学期の「**クラス編成**」に関わることができます。

「**クラス編成**」について、学校に働きかけてみようとお考えの保護者さん！

その流れとポイントを、以下の3ステップにまとめてみましたので、参考にしてください。

★ステップ1 新しい「クラス編成」について、子どもの希望や要望を聞いてみる。

- ・「新しいクラスのことで、学校に、お願いしたいことは、ない？」
- 「一緒にクラスになりたい（なりたくない）友だちは、いる？」
- 「担任をしてほしい（してほしくない）先生は、ある？」など。



- * 聞くときの**雰囲気**や**タイミング**が、とても大切です。
子どもの表情が良いとき、前向きな気持ちになっているときなどに聞くのが、better。
- * 子どもの希望や要望は否定せず、全てを受け止めます。保護者の意見を述べたり批判したりすると、子どもは話さなくなるので、**注意**が必要です。
- * 子どもの希望は1つとは限りません。複数聞けると、環境調整に、より役立ちます。

★ステップ2 子どもから聞いた希望や要望を、校長に伝える。

- ・「あなたの希望は、学校に伝えておいてもいい？」
- * 伝える前には、必ず**子どもの了解**をとっておきます。親だけで勝手に動いてはいけません。
- * 希望は、**校長に、直接**、伝えます。担任、主任、教頭では、いけません。
学校運営に関する全ての権限をもっているのは、・・・校長だからです。
- * 新しい「クラス編成」についての希望や要望は、**2月中**に伝えておきます。（注2）

★ステップ3 「クラス編成」の希望を校長に伝えたことを、子どもに伝えておく。

- * 校長が回答した内容があれば、・・・それも子どもに伝えておきます。
- * 「お父さんたちはここまで頑張ったのだから、4月からは学校に行ってね」などと言っては
いけません。子どもの登校行動にブレーキがかかってしまうので、**注意**が必要！
- * 「学校に行ってほしい」という雰囲気を漂わせるのもよくありません。親は、それを無意識
のうちにやっていることがよくあるので、**要注意**です。
- * 「学校にいけると、いいね」といった**共感的な話し方**は、・・・very good です。

◆再登校にブレーキをかけてしまう、その他の要因も、環境調整を！

学校生活における人間関係以外にも、・・・

子どもの心を不安定にし、再登校にブレーキをかけてしまう要因があります。例えば・・・

□学校を休んでいた間の「学習のおくれ」（重要）

- * 授業で分からないことが重なってくると、不安や緊張が高まります。
そのため、「学習のおくれ」に対する環境調整ができていないと、
何日かは登校できても、数日後、学校に行けなくなることが起こります。



□部活動の先輩や同級生、顧問の先生との「人間関係」（重要）

- * 部活動内の人間関係が不登校の要因になっているケースは、思っている以上に多いです。

□家庭生活の「不安やストレス」（最重要）

- * 家庭生活の「不安やストレス」を感じていると、人の行動に、ブレーキがかかります。
子どもが登校しようとする行動にもブレーキがかかってくるので、**要注意**です。（注3）
- * 家庭生活の「不安やストレス」として、・・・
親の感情や対応の不安定さ、親の価値観の押し付け、家族・親子の不和などがあります。
これらは、子どもの健全な成長・発達へも影響しますので、**十分な配慮が必要**です！

上述したような、再登校にブレーキとなってしまふ要因についても、

**「子どもが登校しやすくなる環境」になるよう、一つ一つ、ていねいに整えていくことで、
新学期からの安定した再登校へと・・・つながっていきます。**

文責 西村明倫 不登校カウンセリング&セラピー「クローバー」代表
公益社団法人日本心理学会認定心理士、心理カウンセラー

主な参考文献等

注1 文部省委託事業「不撓呼応の要因分析に関する調査研究」報告書
公益社団法人子どもの発達科学研究所 令和6年3月公表

注2 3月に入ると、各学校とも、新学期のクラス編成は、一斉に動き始めます。
ですから、子どもの希望や要望は、2月末までに学校（校長）へ伝えておくことが大事です。

注3 「アタッチメント障害とその治療」 カール・ハインツ・ブリッシュ著 誠信書房 2008.5.30

「子どもが登校しやすくなる環境づくり」についての相談窓口（お知らせ）

* ご希望の方は、「クローバー」へ、ご連絡ください。

メール counseling.clover@gmail.com

電話 090-8996-9883 （面談中は電話に出れません。後ほど返信します。）